

3. 地域の避難実態（とりまとめ結果）

3.2 平田地区 (1) 平田地区（大字平田第3～6地割）

1) 地域の被災状況

地域名	震災前の 人口・世帯数 (平成23年2月現在)		大震災の被害			避難訓練参加者数・参加率 (平成23年3月3日実施)	
			犠牲者数 (平成25年 1月22日)	全壊・半壊家屋数 (平成25年6月現在)			
平 田	1,219 人	497 世帯	18 人	全壊 171 件	半壊 93 件	110 人	9% (対象地区：大字平田 第3～6地割)

2) 震災当日の津波避難行動実態

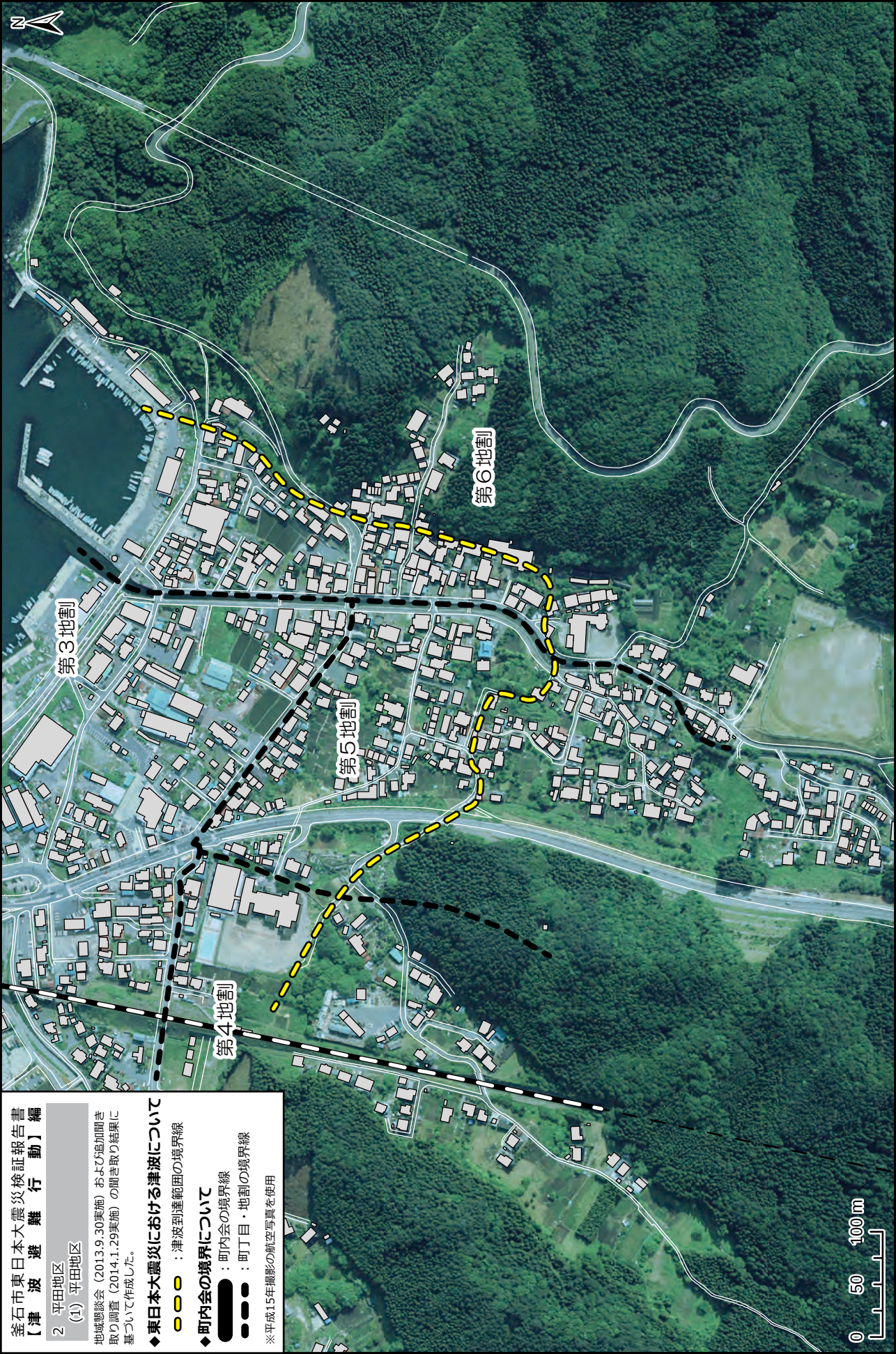
- ・地震後、町内各所で数人の住民が集まり、周りの様子をうかがっていた。
- ・海岸付近に居住する住民は、津波避難に関する意識が高く、比較的早くから最寄りの高台等に避難した。また、住民同士で協力しあい、怪我人や車椅子の利用者等、体が不自由な方の避難を補助し、旧釜石商業高校等の避難場所への移送を繰り返した。
- ・体の不自由な方を安全と思われる場所まで車椅子で移動させたが、その場所が浸水して流された。
- ・自宅から避難しなかったため、津波襲来後、自宅の屋根に上って一命を取り留めた方もいた一方で、自宅に流された方もいた。
- ・一度避難したが、ペットが気になり自宅に戻って流された方もいた。

3) 震災以前の備え

- ・自宅の場所により、概ねの避難場所は各自で定めていた。

4) 問題点・課題の整理

- ・地震発生後、すぐに避難を開始することを徹底させる。
- ・要援護者のために安全な避難場所も含め、地域で避難方法を検討する機会をもち、それを各地域に周知する。



釜石市東日本大震災検証報告書
【津波避難行動】編

2 平田地区
(1) 平田地区

地域懇談会（2013.9.30実施）および追加聞き取り調査（2014.1.29実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

- ：津波到達範囲の境界線
- ◆町内会の境界について
- ：町内会の境界線
- ：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用

3. 地域の避難実態（とりまとめ結果）

3.2 平田地区 (2) 尾崎白浜地区（大字平田第7～8地割）

1) 地域の被災状況

地域名	震災前の 人口・世帯数 (平成23年2月現在)		大震災の被害			避難訓練参加者数・参加率 (平成23年3月3日実施)	
			犠牲者数 (平成25年 1月22日)	全壊・半壊家屋数 (平成25年6月現在)			
尾崎白浜	340人	124世帯	2人	全壊26件	半壊2件	60人	18% (対象地区：大字平田 第7～8地割)

2) 震災当日の津波避難行動実態

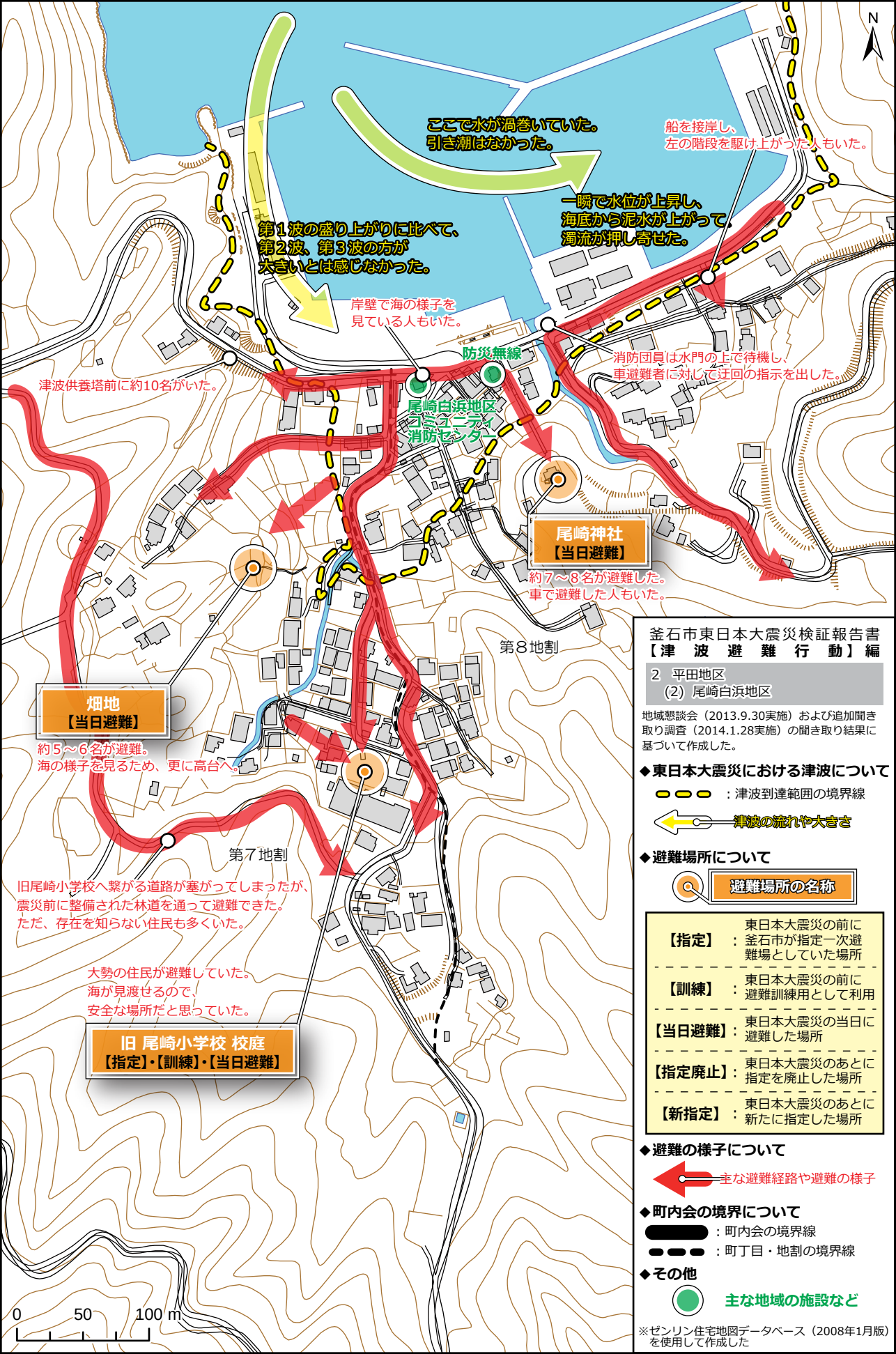
- 多くの住民は地震と同時に家から出て、周りの様子を見ていた。高台に集まり、海の様子を見ていた住民もいた。船の様子を見ていた方もいた。
- 周りの住民が声掛けしたが、家に留まり、逃げなかった方もいた。
- 体の不自由な方（高齢者ではない）が介護者とともに流された。

3) 震災以前の備え

- 平成22年10月に自主防災組織を町内会で設置した。
- 3月3日の避難訓練には、90～100名程度は参加していたが、形式的・表面的になってしまい、重要であるという認識が薄れていた。
- 震災前、要援護者の避難支援の担当者を決めていた。地区での自主的な訓練を計画していたが、その前に震災に見舞われた。震災当日は地域での組織的な避難誘導まで頭が回らなかった。

4) 問題点・課題の整理

- 地震発生後、すぐに避難を開始することを徹底させる。
- 地域単位での要援護者支援方法や避難誘導方法を検討しておく。



ここで水が渦巻いていた。
引き潮はなかった。

船を接岸し、
左の階段を駆け上がった人もいた。

第1波の盛り上がり比べて、
第2波、第3波の方が
大きいとは感じなかった。

一瞬で水位が上昇し、
海底から泥水が上がって、
濁流が押し寄せた。

岸壁で海の様子を
見ている人もいた。

津波供養塔前に約10名がいた。

防災無線

尾崎白浜地区
消防センター

消防団員は水門の上で待機し、
車避難者に対して迂回の指示を出した。

尾崎神社
【当日避難】

約7～8名が避難した。
車で避難した人もいた。

第8地割

畑地
【当日避難】

約5～6名が避難。
海の様子を見るため、更に高台へ

第7地割

旧尾崎小学校へ繋がる道路が塞がってしまったが、
震災前に整備された林道を通して避難できた。
ただ、存在を知らない住民も多くいた。

大勢の住民が避難していた。
海が見渡せるので、
安全な場所だと思っていた。

旧 尾崎小学校 校庭
【指定】・【訓練】・【当日避難】

釜石市東日本大震災検証報告書 【津波避難行動】編

2 平田地区 (2) 尾崎白浜地区

地域懇談会（2013.9.30実施）および追加聞き
取り調査（2014.1.28実施）の聞き取り結果に
基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

--- : 津波到達範囲の境界線

← : 津波の流れや大きさ

◆避難場所について



避難場所の名称

【指定】	東日本大震災の前に 釜石市が指定一次避 難場としていた場所
【訓練】	東日本大震災の前に 避難訓練用として利用
【当日避難】	東日本大震災の当日に 避難した場所
【指定廃止】	東日本大震災のあとに 指定を廃止した場所
【新指定】	東日本大震災のあとに 新たに指定した場所

◆避難の様子について



主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について



町内会の境界線



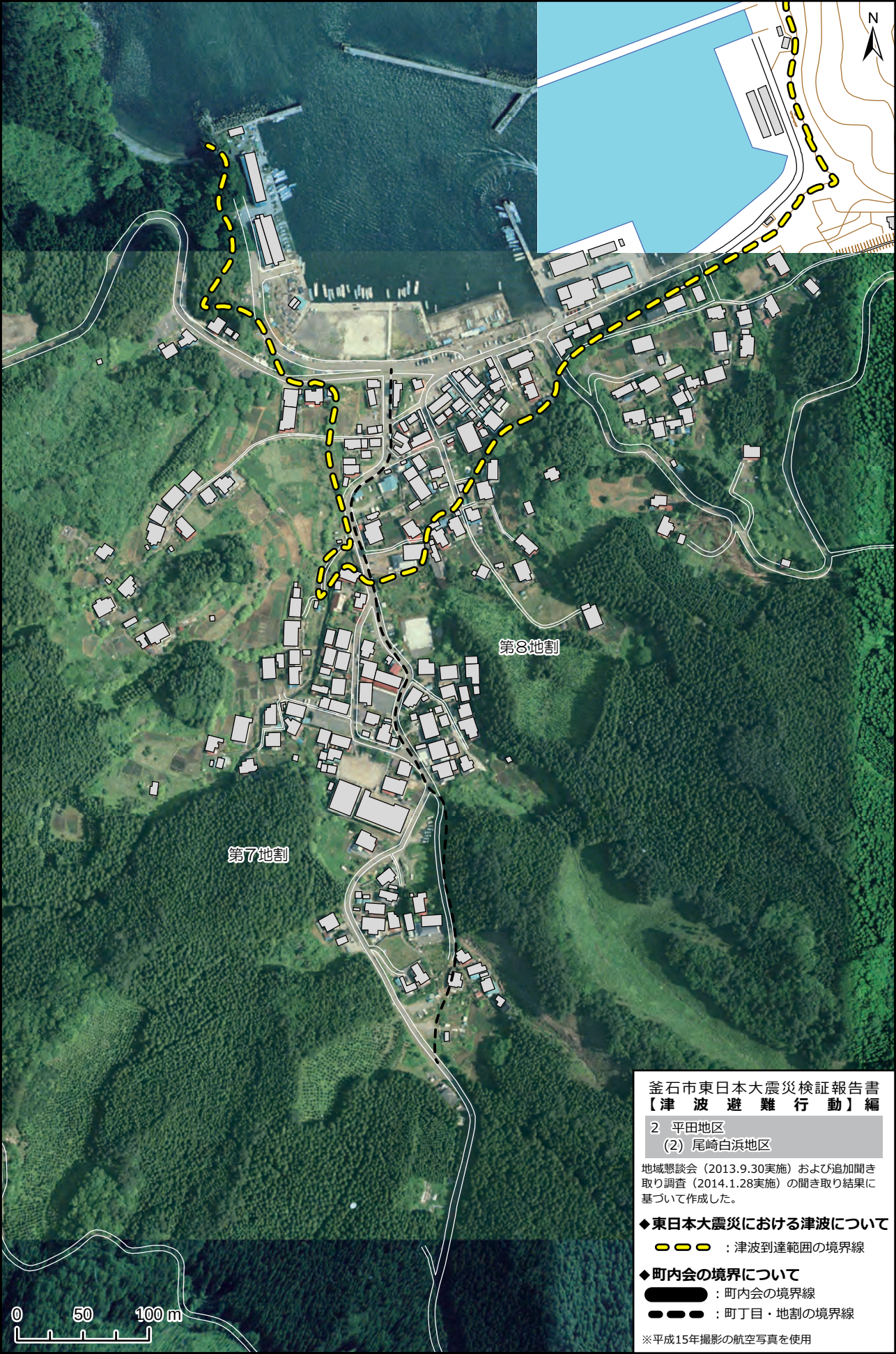
町丁目・地割の境界線

◆その他



主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）
を使用して作成した



釜石市東日本大震災検証報告書
【津波避難行動】編

2 平田地区
(2) 尾崎白浜地区

地域懇談会（2013.9.30実施）および追加聞き取り調査（2014.1.28実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

■■■■■：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

■■■■■：町内会の境界線

■■■■■：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用

3. 地域の避難実態（とりまとめ結果）

3.2 平田地区 (3) 佐須地区（大字平田第9地割）

1) 地域の被災状況

地域名	震災前の 人口・世帯数 (平成23年2月現在)		大震災の被害			避難訓練参加者数・参加率 (平成23年3月3日実施)	
			犠牲者数 (平成25年 1月22日)	全壊・半壊家屋数 (平成25年6月現在)			
佐 須	98 人	26 世帯	0 人	全壊12 件	半壊3 件	53 人	54% (対象地区：大字平田 第9地割)

2) 震災当日の津波避難行動実態

- 地震発生後、大部分の住民は佐須集会所に集まった。集会場付近にも津波が到達したことから、更に高台の民家に車、徒歩で移動、高齢者を車へ乗せて佐須トンネル付近へ避難した。消防団員の避難誘導により、佐須集会所からスムーズに短時間で避難できた。(20分程度)
- 津波に流された方、怪我をした方が数名おり、佐須トンネルの広場まで移動させた。
- 第1波襲来後、海の様子を見に行き、危険な体験をした方もいた。

3) 震災以前の備え

- 平成22年8月に自主防災組織を設置した。
- 毎年、3月に行われる避難訓練には約50～70名の方が参加した。各自で参加を心がけていた。
- 当初、地域内の一番の高台（トンネル周辺）が避難先だったが、訓練を重ねるたびに、地域住民が参加しやすいようにと、集落に近い低い場所へと変更してしまっていた。

4) 問題点・課題の整理

- 「訓練のための訓練」を実施しないことを徹底する。

2 平田地区
(3) 佐須地区

地域懇談会（2013.9.30実施）および追加聞き取り調査（2014.1.30実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

--- : 津波到達範囲の境界線

← : 津波の流れや大きさ

◆避難場所について

📍 避難場所の名称

【指定】	東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆避難の様子について

➡ : 主な避難経路や避難の様子

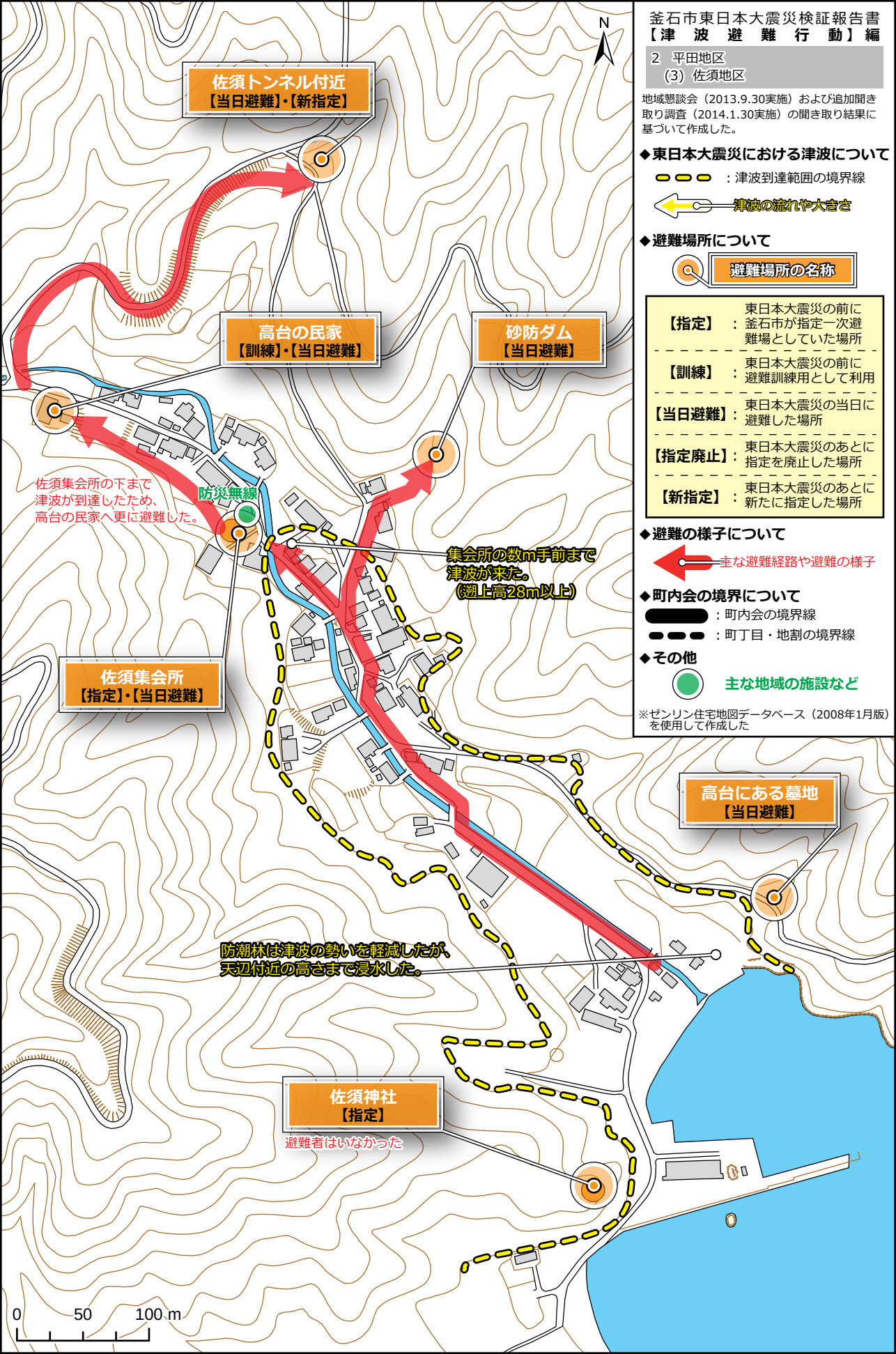
◆町内会の境界について

— : 町内会の境界線
--- : 町丁目・地割の境界線

◆その他

● : 主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した



佐須トンネル付近
【当日避難】・【新指定】

高台の民家
【訓練】・【当日避難】

砂防ダム
【当日避難】

佐須集会所の下まで
津波が到達したため、
高台の民家へ更に避難した。

防災無線

集会所の数m手前まで
津波が来た。
(遡上高28m以上)

佐須集会所
【指定】・【当日避難】

防潮林は津波の勢いを軽減したが、
天辺付近の高さまで浸水した。

佐須神社
【指定】

避難者はいなかった

高台にある墓地
【当日避難】

地域懇談会（2013.9.30実施）および追加聞き取り調査（2014.1.30実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

■■■■■：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

■■■■■：町内会の境界線

■■■■■：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用

